広報伊方町

発行所
愛媛県西宇和郡
伊方町
編集
町長公室
印刷所
尾上印刷所
八幡浜市天神通
電話 ⓒ0894

わが町の昭和50年度 家計簿報告

どう使われたか17億円

昭和五十年度町の台所、一般会計、国保会計、水道会計、学校給食会計、墓地会計、公共用地先行取得事業会計、歯科診療所会計、港湾整備事業会計の決算ができあがりました。そこで五十年度中に町づくり、人づくりのため、どのようにお金が入り、使われたか、町の家計簿を町民のみなさんに知っていただくため、ここにそのあらましを紹介しましょう。五十年度の決算規模は一般会計で十七億円、その他七つの特別会計を合算しますと約二十一億円となりました。なお、一般会計は十年連続黒字となったほか、全会計でも昭和四十三年から八年連続して黒字決算をみました。

一般会計については、下欄で紹介していますが、昭和四十一年財政再建計画を終えてから十年連続の黒字決算をみることができ、健全財政固持の運営を維持しつづけています。

国保会計は、入ったお金が二億七千九百六万円、使ったお金が二億五千九百八十万円で差引き一千九百二十六万円の黒字決算となっていますが、入ったお金の中には前年度からの繰越金一千三十万円及び過年度分国庫負担金三百五十五万円が含まれ、使ったお金には積立金が六十二万円あり、差引き六百二万円が実質単年度黒字となりました。

水道会計は、四百二十一万円の赤字決算となりました。

学校給食会計は、昭和四十三年に開始してから八年目を迎えましたが、五十年度は一千円の黒字決算となりました。

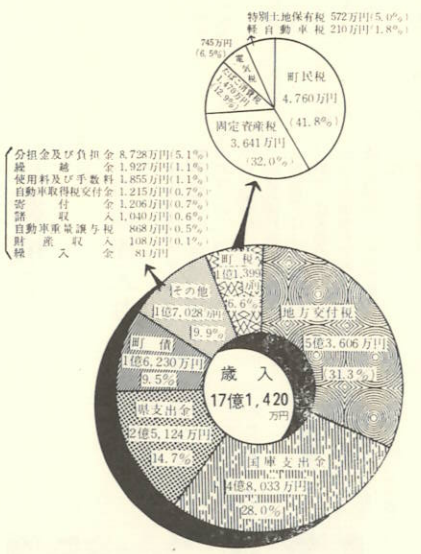
墓地会計は、昭和四十七年からはじまり四年目にあたりますが、単年度では九万円の黒字となっていますが、累積赤字額は二百六十六万円です。

公共用地先行取得事業会計は、十三万円の黒字決算となりましたが、こんど土地開発公社を活用することになったため、この事業会計は五十年度をもって廃止されました。黒字決算額十三万円は一般会計へ繰入れられました。

歯科診療所特別会計は、入ったお金百八十二万円、使ったお金も百八十二万円で差引きゼロ決算となりました。またこの特別会計も当年度をもって廃止されました。

港湾整備事業会計は、昭和四十九年に新しく設けられたもので、入ったお金が一千四百八十万円、使ったお金も一千四百八十万円でゼロ決算となっています。

＝入ったお金の構成＝



使ったお金

◎は町民1人当りの額

(人口はS51.3.31日現在で計算)

17億1,090万円　1世帯当り 676,780円

歳出総額	議会費	総務費	民生費
◎ 189,154円	2,826万円 (1.7%) ◎ 3,124円	1億9,359万円 (11.3%) ◎ 21,403円	3億5,095万円 (20.5%) ◎ 38,800円
衛生費	**労働費**	**農林水産業費**	**商工費**
5,935万円 (3.5%) ◎ 6,562円	1,340万円 (0.8%) ◎ 1,481円	4億3,002万円 (25.1%) ◎ 47,542円	298万円 (0.2%) ◎ 329円
土木費	**消防費**	**教育費**	**災害復旧費**
3億1,854万円 (18.6%) ◎ 35,217円	2,589万円 (1.5%) ◎ 2,862円	1億0,315万円 (6.0%) ◎ 11,404円	6,503万円 (3.8%) ◎ 7,190円
公債費			
1億1,974万円 (7.0%) ◎ 13,238円			

町民1人あたりの税金

(人口はS51.3.31日現在で計算)

総額	固定資産税	町民税	たばこ消費税	電気税	軽自動車税
11,969円	4,025円	5,263円	1,625円	824円	232円

一般会計 基盤整備に重点投資

十年連続の黒字決算

一般会計について昭和五十年度決算となりましたことは、町民のみなさんの町行政に対する深いご理解と協力のたまものです。

町の台所に入ったお金は、総額十七億一千四百二十万円、使ったお金が十七億一千九十万円、差引き三百三十万円の黒字となっています。(前年度一千十八万円)

一般会計で十年連続、全会計の合計においても八年連続の黒字決算となりました。

入ったお金 (歳入)

町税六・六%

入ったお金の順位は

地方交付税(三十一・三%)

国庫支出金(二十八%)

県支出金(十四・七%)

町債(九・五%)

町税(六・六%)となっています。

国、県への依存財源である地方交付税、自動車重量譲与税、自動車取得税交付金、国庫支出金、県支出金、町債を合算しますと八十四・七%となり、四十九年度の七十九・五%とくらべ五・二%依存率は高くなっています。

自主財源の主軸をなす町税についてみてみますと、

四十五年度	六・〇%
四十六年度	四・七%
四十七年度	三・八%
四十八年度	五・〇%
四十九年度	五・〇%
五十年度	六・六%

と十%をはるかに下まわるまったくの一割自治の実態です。

こうしたなかで、財政力の弱さを克服し、町づくり、人づくりのため積極的に事業推進したあらわれでもあります。

使ったお金 (歳出)

建設事業費に九億三千万円

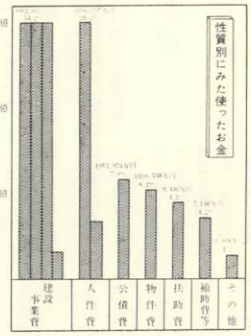
使ったお金では農林水産業費(二十五・一%)民生費(二十・五%)土木費(十八・六%)総務費(十一・三%)公債費(七・〇%)教育費(六・〇%)の順位になっています。

これをみてもわかりますように農林水産業費、民生費、土木費など投資的経費を多く含む科目が上位をしめています。

つぎに使ったお金を性質別に分析してみますと、建設事業費が五十四・二%(前年五十五・九%)をしめ、約九億三千万円にもなりますついで人件費の二十一・二%、公債費の七%、物件費六・二%とつづいています。

最後に使ったお金十七億一千九十万円は一世帯あたり六十七万六千七百八十円、一人あたりで十八万九千百五十四円使った勘定になります。

町民のみなさんが納められた町税は約一億一千万円ですが、町税の細部にわたる一人当りの金額をカットによって数字を掲載していますので参考にしてください。



各会計の決算状況

項目	入ったお金	使ったお金	差引額
一般会計	17億1,420万円	17億1,090万円	330万円
国保会計	2億7,906万円	2億5,980万円	1,926万円
水道会計	4,064万円	4,485万円	△ 421万円
学校給食会計	3,334万円	3,334万円	0万円
その他の会計	2,426万円	2,678万円	△ 252万円
全会計	20億9,150万円	20億7,567万円	1,583万円

〔おもな事業〕

▶道路の建設、海岸整備など

8.7キロにおよぶ町道舗装に6,857万円。

豊之浦臨港線、亀浦臨港線新設などに、5,749万円。亀浦町見線、町道立神線改良などに3,384万円。

小中浦高汐対策に 2,839万円
中之浜護岸補強費 1,017万円
仁田之浜 〃 1,510万円
大浜護岸消波工事 1,842万円
伊方越漁港舟揚場新設 645万円
中浦海岸保全施設 853万円

田之浦漁港けい船岸新設 1,040万円、田之浦漁港局部改良事業 1,450万円。

▶産業の発展のために

仁田之浜畑地帯総合整備事業 5,787万円、古屋敷畑地帯総合整備事業 4,653万円、灘地区樹園地農道整備 5,120万円、町見中央農道新設費 4,620万円、加周農道新設費 2,385万円、農道舗装に 1,180万円、国土調査事業に 2,758万円、松くい虫防除費 960万円、並型魚礁設置費 390万円、農業振興費として 2,350万円。

▶住みよい環境、健康な町に

湊浦二小集落改良事業(大川荘) 9,223万円、老人医療費など老人福祉に 3,876万円、児童手当 3,602万円、亀浦集会所建設 1,090万円、予防接種医薬材料費 197万円、一斉消毒薬品代 214万円、農薬危害防止対策費 202万円、下水道整備として531万円、河内公園施設整備206万円、小型消防ポンプ積載車購入(7台) 678万円、可搬動力ポンプ購入(2台) 108万円、河内防火水槽(3基) 450万円、豊之浦ポンプ格納庫新築 300万円。

▶豊かな人間づくり

7つの保育所運営費として1億0,774万円、6つの小学校費に 2,403万円、2つの中学校費に 1,810万円、伊方中、町見中夜間照明施設 910万円。公民館費 412万円、社会教育団体育成に 923万円

大きくはばたけ新成人

胸ふくらませ　大人の仲間入り

一月十五日は成人の日。この日中央公民館では、はたち の青春を祝う"成人式"が盛大に行われました。

新成人の出席者三十三人（男二十二人　女十一人）。

七年間守りつづけられてきた服装の簡素も定着化し、ことしも全員が洋服姿で出席／しっさわやかです。

式典は多数の来賓が列席し「君が代」斉唱、成人者紹介のあと、山本町長、栗田教育委員長のあいさつ、記念品贈呈（アルバム、成人手帳）、つづいて高月教育長、辻町議会議長、兵頭青年団協議会長のお祝いのことばがありました。

ついで来賓自己紹介、祝電披ろう、新成人者代表（佐々木秀也さん＝古屋敷）による誓いのことば、最後に成人者の健康と活躍を祈念して栗田教育委員長の音頭で万歳三唱を行ない式典の幕を閉じました。

式典のあと新成人者代表（松田光一さん＝久保、島本睦子さん＝仁田之浜）、青年団員代表（清水未昭さん＝小中浦、小池花子さん＝川永田）老人クラブ渡辺高十郎会長、婦人会菊池マシエ会長の意見発表があり、ついで記念撮影、このあと昨年につづいて記念植樹行事にうつり、ことしは「ヒマラヤ杉」を中央公民館バレーボールコート横に植樹しました。

そのあと楽しい会食のほか、血液検査を実施しました。

青年団が餅つき

特にことしの場合、青年団が新成人の輝かしい前途を祝福しての「餅つき」を行ない紅白の餅をそれぞれ記念にくばりました。

新成人のみなさん！

みなさんには輝かしい青春と未来があります。出席者のほとんどが町内居住者でこんどこうした人たちが町発展の原動力となるわけです。

ふるさと伊方町を愛し、より豊かな町にするため、手をとりあってがんばりましょう。

みなさんの前途は洋々たるものがあります。大きくはばたいてください。

新成人の前途を祝う餅つき

20歳の声

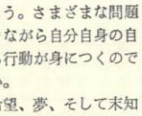
今年成人式を終えられた3人のみなさんに「20歳の声」と題して、成人となった心がけや抱負を語っていただきました。

佐々木秀也さん（古屋敷）

自覚・責任をモットーに

成人式を終えた今、私はこんど何らかの目的を持って生きて行かなければならない。私たちのこれからの人生には幾多の苦難と快楽があるでしょう。さまざまな問題と抵抗を破りながら自分自身の自覚、責任ある行動が身につくのではなかろうか。

私の胸の中には希望、夢、そして未知にあふれた人生像が今にも手で描くように浮んでくる。いくつかの目標にむかって一つ一つ確実に果しながら歩んで行きたい。一社会人としての認識、責任ある行動をモットーにして……



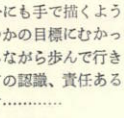
吉本まさみさん（小中浦）

くいのない人生を

私も今年からやっと大人の仲間入り、うれしいような恐わいような複雑な気持ちでいっぱいです。でも正直言って20歳になった実感がわいてこないのです。これも私が世間知らずの未熟ものだからなのでしょう。早いもので社会にでて働いてから1年近く、働くことのきびしさ、つらさ、むずかしさをはじめて知りました。

20歳と言っても親から見れば、まだまだ子ども、これからは他人の意見を尊重し、一人前の大人として早く認めてもらうよう努力したい。

と同時に長いようで短かい人生、くいのないようマイペースで進んで行きたいと思っています。



成田富香さん（中浦）

マイペースで進みたい

〝20歳〟〝成人〟という言葉を耳にした時、私は何かを与えられたように思えた。

◎青春の立ちどまり!!

もう一度立ちたい　あのスタートラインに　もう一度切りたい　あのラストテープを　雨に流した　職いの汗

雨に汚したあのユニフォーム

はかなく散った　あの一瞬

はかなく消えた　夢の勝利

もうふり向けない　私に負けるから

ふり向くことはできない

明日があるから

今日からは一日いちにちを大切にして、くいのない人生をすごしたいと思う。

おめでとう三瀬さん（伊方中）

「原子力の日」記念作文　見事優秀賞に！

さる10月26日は第13回の「原子力の日」でした。全国各地ではいろいろな催し物が行われましたが、日本原子力文化振興財団では「原子力の日」を記念して作文募集（第8回）を全国の高校生、中学生（中学生は今回がはじめて）から行いました。三つのテーマに対して応募総数919篇（中学生333篇、高校生586篇）あり、そのなかから中学生部門で伊方中学校3年生の三瀬香苗さん（湊浦）の作品が晴れの優秀賞に輝きました。そこでこの機会に優秀賞に選ばれた三瀬さんの作品を紹介し、こんごエネルギー源として大きな役割を果すであろう原子力発電所について理解を深めていただきたいと思います。テーマは「21世紀の日本と原子力」です。

二十一世紀の日本と原子力

伊方中三年　三瀬香苗

現在、日本のエネルギー源は、石油が主である。しかも二十年前は、石炭が主であったエネルギー危機に見舞われたこの二、三十年間に、日本のエネルギーはめざましく変化している。

二十一世紀、今から二、三十年後のエネルギーは、どのように変化していくのだろうか。

現在、日本のエネルギー源の石油や石炭といったいわゆる化石燃料は、地中の存在量に限りがある上にその存在地域がかたよっていて、こういうものだけをエネルギー源として使っていると、特に石油にいたっては、石油産出国グループや国際石油資本の考え方だいでたちまち突然変異を利用して品種改良を行うことができる。その他、光合成のしくみがわかったり、発芽を防止することもできる。

このような事情から、次の時代のエネルギー源として原子力が注目され、原子核の分裂融合によって放出される化石燃料とはけた違いの発生率のエネルギーを、何とか有効に利用して、今日のエネルギー源としてわれわれの生活の場に浸透しようとしている。

二十一世紀の日本の農業、工業、その他医学などラジオアイソトープを利用するとどのように変化するだろうか。

まず農業の品種改良をするときはどうであろう。今だったらいろいろな研究に研究をつみ重ねて品種改良をしなければならない。しかし、原子力はその発生にともなって放射能が出たり放射能をもった副産物ができる。ということよりも、その人の出身校や職業、社会的地位などを先に考えたり、過去の身分や出身地をとりあげたりするなどが、その例であり、古い家の制度の残された家族関係や、家格、格式が重んじられる村の習慣、各種団体の派ばつにより、同情的な気持ちで接したりするなど、心の中に差別の気持ちがないとはいえません。

三、差別や偏見を支えているものは何でしょう。

㈠「封建的な因習と偏見がその一つです。」

一見近代化されたと見える社会の中も、いまだに封建的なものの考え方が根強く残されているからです。

例えば、その人がいかに努力し、いかに人間として立派であり、社会のためにつくしたかということよりも、その人の出身校や職業、社会的地位などを先に考えたり、過去の身分や出身地をとりあげたりするなどが、その例であり、古い家の制度の残された家族関係や、家格、格式が重んじられる村の習慣、各種団体の派ばつにより、同情的な気持ちで接したりするなど、心の中に差別の気持ちがないとはいえません。

㈡「その二つ目は人間の心の問題です。」

人間は、集団に所属し、集団の中で認められ、安定したいという欲求をもっています。したがって、子どもに一番つらいことはと聞くと、その第一に挙げるのが仲間はずれにされることだと答え、またお年よりにいちばんつらいことはと聞きますと、家族から冷たくあつかわれることだと答えます。

人は、家庭はもちろん、社会の中でのけものにせられることは、身を切られるよりもつらいものです。

ところが、人間には常に優位にたちたいという欲望があり、そのため努力し、競争もしますが、この欲望は、優位にたとうとして差別したりして自己満足する気持ちともなります。

例えば

◎彼は今○○社長だが、小学校しか出ていない。

◎あの人は国会議員だが、もともと○○の出身である。

◎私は今こそ落ちぶれているがもとは士族の家柄である。

などむかしの身分や、過去の経歴、職業、出身地をもち出すなどその例です。

誤った優越感がどれ程相手の人を傷つけているか知らない心の貧しさが、差別を差している原因で

同和教育シリーズ

みんなで考えよう（その一）

はじめに

人間は生まれながらにして平等であり、基本的人権は侵すことのできない永久の権利として私たち一人ひとりが持っています。

お互いの人権を認め尊重していくことこそ民主主義の基本なのです。

ところが、今日、私たちの身のまわりには、長い歴史を経てもなおかつ、社会の仕組みや人の心にしみついた不合理な差別や偏見がぬぐいさられていません。

その中でもっとも深刻で重大な人権問題は、同和地区の人々に対する差別問題です。

この同和問題について正しく認識、理解していただき、部落差別をなくして住みよい地域づくりの手がかりとなるよう、同和問題はみんなの問題（国民的課題）として、ここに「みんなで考えよう」をシリーズもので掲載することになりました。

町民のみなさんには、この趣旨をよくご理解いただき、同和教育推進のためご協力くださいますようお願い申し上げます。

一、同和問題とはどんなことですか。

「今も残されている部落差別という社会問題です。」

江戸時代につくられた封建的な身分制度に基づく差別の因習が残っており、同じ血を分けた日本人でありながら一部の人が出身地によって差別をされ、すべての国民に当然保障されなければならない基本的人権が、完全に保障されていないという深刻で重大な社会問題です。

二、〝差別は今日、もうない〟という人がいますが果してそうでしょうか。

「結婚や日常生活の中に、差別は今も残されています。」

表面的には差別をしていないといいながら、敬遠して気をつかったり、無関心をよそってさけたり、見られる親分子分の関係など、社会のいたるところに身分の上下と支配服従が残されているこの社会の体質そのものが、部落差別を支えている根本です。

㈢「その二つ目は人間の心の問題です。」

人間は、集団に所属し、集団の中で認められ、安定したいという欲求をもっています。したがって、子どもに一番つらいことはと聞くと、その第一に挙げるのが仲間はずれにされることだと答え、またお年よりにいちばんつらいことはと聞きますと、家族から冷たくあつかわれることだと答えます。

（伊方町同和教育協議会）

家庭教育 私の体験記

ことし4月に新入学されるお子さんをお持ちの各家庭では、就学を目前にして健康、しつけ指導等何かと気をくばられていることでしょう。

また、最近幼児教育、家庭教育の重要性がさけばれており、いろいろな研修講座が実施されています。

ここに紹介する3人のお母さん方の体験記は「就学前母親研修講座」の席上、意見発表されたものをまとめたものです。就学前のお子さんをお持ちの家庭のお母さん、お父さん／何か考えさせられる点が多くあろうかと思います。ご一読願います。

家庭で教育の土づくりを

藤井順子（向）

私は入学までの家庭教育の期間を徳川家康主義で一貫してきました。〝鳴かずんば鳴くまで待とう不如婦〟といっても良きにつき悪きにつけやりたいことをやらせたわけではありません。

婦人雑誌等を買いこんでしつけのことをがむしゃらに読みあさりました。それはあくまでも参考にしたにすぎません。子どもにはそれぞれの能力や性格があり、本の通りに当てはめることは不可能であります。子どもを将来この道に進めたいからといって三、四、五歳にはそのようなしつけ教育をしようと思っても理想と実践は必ずしも一致しません。

その子の持つ能力以上のものを期待しないこと、自分の考え、夢の能力以上のものを求めているわけで、「ちょっと待って」は、その可能性を育てるどころか反対にもとのさやにおさめてしまうことでのびなくなってしまいます。これに親は子は対し完璧であってはならない。十のうち三、四位は子どもに教えられるようなこともあって良いのではないかと思います。子どもの心は純粋で意外ときびしい目で親なり先生なりを見つめているものです。けれども決して意地悪ではありません。親の欠点を補ってやろうと思い許してあげたいと思っているに違いありません。だから子どもたちは何もかも完全な親より何かひとつ、子どもよりも劣っているような親にしたしみを持つのだと思います。

＝教育の場である家庭＝

家庭は日常のくらしの場であるばかりでなく、おたがいのいこいの場でもあります。それとともにまたここで人間成長の土台が造られることを考えますと、この家庭こそ最も大切な教育の場であり、教育の土壌であることはいうまでもないことだと思います。

＝子どもに対する愛情＝

一、例えば自分のお腹を痛めた子どもだからといって手取り、足取りする溺愛、すなわち盲目の愛

二、腹の痛みをすて人格を認めて育ての親としての子にむかう愛、すなわち正しく愛する公正な愛。

の二つがあります。

私は後者を選び子どもが心心着くところからこれをはじめました。こうすれば客観的に我が子を判断でき、公平に処理することができます。だから何事においても子どもが自分で出来ないことは、可愛いからではなく可愛そだから手伝ってやるという協力の精神で子どもの成長ばかりを見つめて手ばなして喜んでいては始まりません。それだけ親も成長しなくてはならないのです。親が伸びればこそ大切なものが多いのではないでしょうか。

大切な子どものしかり方

富岡みゆき（奥）

みなさんは、多くの子どもを観察されて、子どもの中には本当にいろいろな子どもがいることに気づいておられることと思います。

非常に明るくて健康そうで、接していてなんとなく愉快な子どもいるかと思えば、あたりかまわず不平不満をぶちまけている不機嫌な子どももいます。

このような性格や行動は生まれながらに定まっているのでしょうか。そうではないと思います。

昔から「三つ子の魂は百まで」といわれていますように、幼児それも〇〇小さい頃の家庭での接し方や教育の仕方の違いが、その後長い人生、その子どもの生活態度や性格をつくっているのではないでしょうか。

では家庭でどのような接し方をするのが望ましいのでしょうか。

まず大切なことは、子どもをどのような子に育てたいかということを親がしっかりと自覚していることだと思います。

明るくのびのびしてはっきり意志表示のできる子ども、素直で大人を信頼し決められたことが守られる子ども、元気がよくて冬でも汗を流すほど活発に遊ぶ子ども、気がやさしくて友だちや幼い者、動物等に親切である子ども……

このような一つのイメージを親が持って、子どもに接することが大切かと思います。

そこでこうした子どもを育てるにはどのような点に注意したらいいのでしょうか。いろいろあると思いますが、ここでは二点ほどあげておきます。その第一は子どものしかり方です。

親が子どもをしかる場合、親の利己主義で自分の思うようにならないということでしかると、子どもは敏感にそれを悟り、反感を持つと思います。しかることで一時行動は中止したとしても何の解決もならないばかりか、しかった後の行動を暖く見守ってやるなつかしいままに話は昔に返って行きました。

「昔三つ一円で金魚の形をしたお菓子があったしゃろ」

「昔には金魚が三匹育るのに僕のは二つしか入ってない、と大きな声でだだをこねたあの子にこの間出あったら、もうこんなに大きくなっていてびっくりしたのよ」

四よくない点は注意するが、長所はほめてやる。

以上のほかにもいろいろあると思います。母親がしかる時の父親の態度、あるいは父親がしかる時の母親の態度。つぎに第二の点は家庭の雰囲気です。

家族の中に隠しごとがない平和でいつも明るさが漂っているような家庭をつくるよう心がけるべきだと思います。最後に子どもを育てる時には、毎日気ながにこつこつとしつけて行くことが大切ではないかと思います。

幼児教育雑感

池田モリヱ（須賀）

夏のはじめ私は保育所の大沢先生からうれしい便りをいただきました。

「お宅のさとこちゃんの朝顔が保育所で一番に咲きましたから見にきてください」

「母ちゃんこっちよこっちよ」と小さい手に引張られて、私はたくさんならんだ朝顔の鉢植の前に立ちました。じっにうれしそうな子どもの顔とほほえみかけているように見える朝顔を見ていると、私までが何だかうれしくなってきました。「よかったなあ」私はそういってしばらくよろこびに満たされたのです。

三歳となると子どもを保育所へ連れて行っては大切な幼児期をまかせっきりにすごしてきた私でした。自分で育ってきたような顔をしているけれども大半は保育所のお世話になったのだと思うと、感謝の念で一杯になります。

八月の中頃、私は八幡浜の港で佐伯ヨシヱ先生にあいました。

「あなたのには、そのかわりに連れて行ってはやる大切な幼児期をまかせっきりにすごしてきた私でしたよ。どんなに説明してもお菓子があったしゃろ」

「昔には金魚が三匹育るのに僕のは二つしか入ってない、と大きな声でだだをこねたあの子にこの間出あったら、もうこんなに大きくなっていてびっくりしたのよ」

八月の中頃、私は八幡浜の港で佐伯ヨシヱ先生にあいました。

「あなたのには、そのかわりにビスケットが一つよけい入れてあるのよ、とどんなに説明してもお菓子があったしゃろ」

「昔には金魚が三匹育るのに僕のは二つしか入ってない、と大きな声で笑いました。帰りの船中で私はいろいろなことを思ったのです。大人の世界では笑い話でも、子どもにとってはどんなに重大問題であったことか。

多くの子どもを育ててきた今の私には、その時その子どもの気持がよくわかるのです。一つのお菓子がほしかったのではなく、昔と同じでなかったのが許せなかったのだと思います。

今はあまり見られない光景です／今日幼児教育という言葉をよく聞かされます。幼児期の子どもを持つ親になすべき教育だと思います。

「三つ子の魂百まで」とか、昔の人もこの時期の大切であることを、こんな名言を持って私たちに伝えています。

毎日毎日の生活の中からそれぞれの子どもによっていろいろなことを教えられながら、私たち親も子どもといっしょに育って行くのではないでしょうか。

〝ながら俳句会〟の歩み

山口朝子（畑）

草を引きながら、掃除をしながら、みかんを摘みながらの「ながら俳句会」は昭和五十年十一月五人で発足しました。

誰も句の道を知らず、手さぐりに手をつないで一年余りを歩んできました。

現在では一人が加わり六人で俳句を楽しんでいます。ながら俳句会の句にはあまり進歩はないかもしれません。でもこれでよいのです。

山桜の清らかさ、若葉の輝き、小川のせせらぎ、雪の静けさ、取り残された柿の実に四季折おりの自然を自分なりに五七五の十七字にまとめることの喜び、考えて書くことは頭の老化を防ぎます。

「ながら俳句会」はいつでも、どこでも無理せずに、そんな気持でつづけて行きたいと思っています。

＝俳句＝

初髪の娘に振り返る街の角　岩見あい子（奥）

大根焚す湯気と香りにつつまれて　城岡さかえ（奥）

水仙を活けて明るき夕厨　筧辺なみえ（奥）

大寒や裳中しかと柿小枝　山口あさ子（畑）

千両の色も鮮やか小正月　城岡ちづる（奥）

船縁をたたき寒ぼら網絞る　平井ちよ子（加周）

＝短歌＝

黄昏の池の水の面に水鳥の翼巧みに追いつ追われつ　水上好松（畑）

創作にはげむ会員のみなさん
1句1句の中に生活の香りがにじみでているのが印象的です。

寄稿欄

ふるさと感

神戸市　福井東（仁田之浜出身）

私たちも伊方を離れましてより早くも二昔になんなんとしております。

時たまの帰郷で波静かな伊方湾に浮ぶ数隻の鋼船、その間を縫って走る快速艇、山頂まで白く光って走る農道には車の列、まるで神戸港から六甲山をミニチュアしたようなすばらしい風景に、ただたネ」とうらやましがられます。

また、もう少し近いと遊びに、釣に一度行って見たいと、うれしい話を聞くたびに、いまさらながら伊方町の良さを発見したようでまた帰りたくなる気持です。

〝ふるさとは、遠くにありて思うもの〟という言葉もありますね名勝古蹟の多い神戸の海、浜辺にもまして、今の伊方町の景観は私たちにとって一番よいところと自信を持っております。

こんごますますの発展を神戸の空よりお祈り申し上げます。

投稿

初詣で

泉佐野市　清水寿満子（亀浦出身）

ふるさとの潮満つ浜を初夢に初日の出車中に拝し神詣で

真向いし千木かがよえる初日かな

初詣で千木透く空の紺碧に

女童（めわらべ）の長き袂や初詣で

「健康の鍵」運動

体力つくりにやってみませんかあなたも

県スポーツ振興事業団では、本年一月十五日から「健康の鍵」運動を展開しています。

この運動は、県内の十五歳以上の社会人を対象に、日常生活の中で手軽にできる運動（早く歩く、かけあし、なわとび、キャッチボール、バットやクラブの素振りなど十七種目）をつづけて実施し、みんなでより健康になることをねらいとしているものです。

やり方は、自分のその日の運動量を点数表を見て記録カードに記入してゆくもので、それを達成すれば事業団から達成証とバッジがもらえるというものです。

なお、そのカードは中央公民館、町見公民館に置いています。

希望者は、カードをもらってはじめてみませんか、三日坊主ではダメです。

つづけて実施することが健康につながるものです。ガンバッテやってください。

新春いろどる出初式

消防の勇姿を披ろう

伊方町消防団恒例の出初式は一月八日伊方中学校グランドで行われました。

当日は吉川治吉団長以下三百五十人、女子火防隊二十人、ことし初参加の四国電力伊方発電所消防隊二十人、計三百九十人が出動し来賓多数が見守るなかで、新春を飾るにふさわしい堂々の勇姿を披ろうしました。

式典は人員報告、人員、服装、機械器具の点検、機械器具の点検、可動動力ポンプ及び自動車ポンプ操法、女子火防隊による消火訓練、池田六郎本部指揮による小隊訓練、ついで分列行進にうつり消防自動車二台を先頭に可搬動力ポンプ積載車十台（五十一年度三台購入）がつづき、その きびきびした態度は・我々が町民の生命、財産を火災から守ろう・の気慨が充分にうかがえました。

消防団活動に貢献した45人（女子火防隊2人含む）が表彰されました。

つづいて消防団活動に功績のあった団員に対する表彰伝状授与、被表彰者代表、町長訓辞、来賓祝辞、団長訓辞などに続き辞令がありました。

出初式のフィナーレを飾る一斉放水は、伊方港防波堤（田之浦）実施され初春の青空に二十二本の水拡声力強く伸び、春一番の出初式は新年のスタートを色どるにふさわしく消防の心意気を披ろうしました。

なお、当日式典で表彰された方々はつぎのとおりです。

◎県知事表彰
池田六郎（本部長＝古屋敷）
中田文敏（亀浦）

◎県消防協会長表彰
功績彰＝中村健一（副団長）
勤続彰＝門田文昭（中之浜）
岡山繁雄（仁田之浜）
福山賢一（河内）
中村行雄（奥）
荊田長司（加周）
静山静夫（田之浦）
細川　収（古屋敷）
弟田和幸（中之浜）　佐竹元（中浦）
阿部喜英（川永田）　林定清（豊之浦）
門田清男（伊方港）　前田寿栄春（亀浦）
岩見喜太一（奥）　飯尾孔敏（加周）
神山勝（田之浦）　岩井富繁（鳥津）
無火災表彰
第一分団（大浜）
第九分団（豊之浦）
第十四分団（九町東）

◎八西消防連合会長表彰
寺谷貞明（仁田之浜）
西内則計（亀浦）　西内年和（西）
道上只雄（二見）　井上地代（加周）
吉田芳雄（田之浦）
祖母井治二（古屋敷）　藤岡（奥）
竹上五郎（鳥津）
神山勝　井上勇男（町見自動車班＝久保）
女子火防隊
矢野ふくみ（大浜）
田中ミハル（仁田之浜）
＝敬略＝

中之浜　渡辺公和（仁田之浜）
久保常治（河内）　三好昇一（奥浦）
山本昭貞（小中浦）　竹内
柳一郎（中浦）　藤沢忠文（川永田）
河野義心（豊之浦）　兵頭
照正（伊方越）　大西正一（亀浦）
兵頭悦郎（奥）　川内和紀（
）

伊方の若人

①職　業　②趣　味
③好みの異性タイプ
④伊方町をどう思いますか
⑤町づくりに対する希望

中田照喜さん

中之浜　25歳

①農業後継者としてがんばっています。
②小鳥の飼育、つり、読書。
③少し茶目っ気があり、明るい女性。また農業を少しでも理解してくれる女性。
④僕も都会からのUターン者の1人ですが、まだ伊方町には多くの自然が残っているので一番素晴らしいと思います。住んでいる人も人情味あふれるつき合いができる町だと自認しています。
⑤原発、国道バイパス建設等で町もどんどん発展すると思いますが、それと同時に自然保護に力を入れてほしい、特に海、川などの汚れ……。人と自然の調和のとれた町づくりを。

山下時栄さん

田之浦　18歳

①大人の仲間入りをされたみなさんおめでとうございます。銀行に勤めています。
②いまトランプ占いに興味を持っています。手芸や小物を集めるのも好きです。
③ユーモア、男らしさ、やさしさをもっていて、健康な人がいいですネ（理想は高いほど良いといいますから）
④南予の代表となるようなとても住み良い町だと思います。人と人との〝ふれあい〟があたたかくて、働き者の人が多い町です。
⑤公園（大人から子どもまで遊べるような）や病院をもっとふやしてほしいと思います。できれば商店街があればなあと考えます。また、もっと働く場所があれば若い人も町内に残れると思います。

ゆっくりズムで スリップ事故を防ごう

冬の運転で最も恐ろしいのは、積雪や路面凍結のためのスリップによる追突事故や転落事故です。

スピードはひかえめに運転しましょう。

～こんなところが最も危険です～

◆大師トンネル附近、川永田奥から～九町奥部落の間

◆山間部の日陰げ道路

◆特に雨や雪打ち水などで、夜の冷え込みで凍っている場所

―スリップ事故を防ぐ安全運転はこうして―

○タイヤにチェーンかスノウタイヤをつける
○車間距離はじゅうぶんとる
○スピードはひかえめにして運転する
○急にハンドルを切ったり、急に発進したり、急ブレーキなどはたいへん危険です。

所得税の確定申告

二月十六日～三月十五日まで

昭和五十一年所得税の確定申告は二月十六日から三月十五日までが受付期限となっています。

所得税とは、個人が一年間に得た所得に応じてかかる税金です。

(一)商売をしている方や家賃や土地代の収入のある方などで、昨年の所得の合計額が、配偶者控除の合計額より多い方。

(二)サラリーマンで、給与以外の所得が二十万円を超えたり、給与の年収が二千万円を超えるなど一定の要件に当てはまる方は、所得税の確定申告が必要になります。

期限間近になりますと税務署の窓口がたいへん混雑し、落ち着いて相談ができなかったり、長い間待たなければならないというようなこともありますので、申告はできるだけ早く済ませましょう。

贈与税の申告と納税は

二月一日～三月十五日まで

贈与税とは、個人から財産をもらったときにかかる税金です。

贈与税には六十万円の基礎控除がありますので、昭和五十一年中に個人からもらった財産の価額を合計しても六十万円以下のときは申告はいりませんが、六十万円を超えるときは、二月一日から三月十五日までの間に、贈与税の申告をしなければなりません。

（八幡浜税務署）

街を自然を美しく
嗅いからの投げ捨てはやめましょう
Smokin Clean

たばこは町内で買いましょう

大工さんの賃金

一日六、五〇〇円に

一月一日建築業主の集まりである大工講が開かれ、その席上昭和五十二年の大工さんの賃金が六千五百円に決定しました。

昨年にくらべ五百円アップとなりました。

また、〝大工講の掟〟が古くなり新調するようになったようです。

〝密航〟おかしいと思ったら 一一〇番へ

一、最近の密航情勢

◎最近の密航は漁船を利用したり、小型の高速船を利用したり、海上で日本船に乗りかえたり、潜行する型がふえています。

◎最近の密航は季節の区別なく保冷車など、車を利用したりして多数の者が来ています。

二、こんなことを見たら警察へ

◎こんな船
・日本の船であるが、必要以上に人が乗っている。
・灯りを消して島かげにかくれている。
・漁をしないで流している。
・けわしい岩場に接岸している
・沖合で船を乗り換えている。

◎こんな人
・言葉なまり、服装から日本人らしくない。
・海岸でバス停留所、駅、タクシー乗り場など聞く。
・人目をさけるようにする。
・衣服がぬれている。

◎こんな車
・県外ナンバーの車が深夜、早朝人を乗りこませていた。
・海岸に止って沖に合図をする
・ホロかけ等みかけないトラックが何かを待っている。

とうしたことを見かけたりした場合は、すぐに警察へ連絡してください。

（伊方・町見警察官駐在所）

人

昭和51年12月末現在
世帯数2,555戸（＋6戸）

人口 9,108人（男4,332人（＋6人）
（＋10人）（女4,776人（＋4人）

えんむすび

昭和51年12月1日～12月31日

お誕生おめでとう

昭和51年12月1日～12月31日

おくやみ

昭和51年12月1日～12月31日

＝お　礼＝

別府市浜脇一丁目二十二にお住いの渡辺三郎氏（小中浦出身）より五千円。

兵庫県尼崎市立花町二丁目十六番三十六号にお住いの畑中俊治氏（仁田之浜出身）より五千円。

八幡浜市千代田町にお住いで西本医院を経営されている西本正善氏（中浦出身）より五千円。

今治市中寺五六四の九にお住いの畑中久俊氏（仁田之浜出身）より二万円。

大阪府柏原市河原町一番府営住宅一棟八〇二号にお住いの山本清光氏（伊方越出身）より三千円。

東京都大田区中央七の二の七第二本多荘にお住いの高橋敬子さん（川永田出身）より二千円。

松山市北土居五三九の四にお住いの長塩多十郎氏（伊方越出身）より一万円。

長崎県松浦市調川町下免七二五の五にお住いの阿部関義氏（川永田出身）より一万円

それぞれ広報編集の費用にとご寄付いただきました。

紙上より厚くお礼申し上げますとともに健康とご活躍をお祈り申し上げます。

（高齢者消除）

◆高齢者消除とは、生死不明のため、死亡したものとみなして戸籍を法務局の許可を得て職権で消除するものです。